

六 道前道後平野土地改良事業

道前道後平野水利開発事業は、道前道後両平野一万三〇〇〇ヘクタールの灌漑水の補給を行うとともに、共同事業で導水途中の落差利用による発電と工業用水の確保を図るため、昭和三年（一九五七）着工し、面河ダ
導水路一八・七キロメートル、幹線水路（道後三九・四キロメートル、道前二六・六キロメートル）が施工され、昭和四二年（一九六七）に完成した。

しかし、事業完了後二〇年余り経過して、この間農業を取り巻く情勢の変化は著しく、急激な都市化による農地のスプロール化と、維持管理用水の増加、地下水利用の増大と地下水位の低下、農業の機械化、圃場整備による水需要の変化、ハウスや露地園芸の普及による冬期用水の確保など、水需要構造の変化に対応する用水が必要となった。また、一方では老朽化した施設を更新し、用水の円滑な供給と施設の安全性を高め、更に管理施設の近代化が必要となっている。

本事業では前記事業で造成した水利施設の整備、管理施設の近代化を行うとともに、新規水源の開発など総合的な整備を行い、農業経営の合理化を図るものである。

このため、農林水産省は昭和五九年度から事業計画樹立のため直轄調査を行い、今後施設整備の事業が着工の運びとなる。